

地方小出版  
情報誌

# アクセス

毎月1回	1日発行
購読料	定価 150円 (本体 143円)
年間	1,500円(税込み)
振替	00120-0-19017

発行所 (株)地方・小出版流通センター  
編集 アクセス編集委員会

〒162-0836 東京都新宿区南町20  
TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

## 書肆侃侃房

福岡で創業、7年目に突入。全国で売れる本を！

## 出版点数100点はあっという間に過ぎた

文・田島 安江

実は、6年で出版点数が100点を超えたことに、つい先日まで気付いていなかった。最初にISBNを取得したときの10点を忘れていたのだ。「あら、とくに100点を超えているわ」そうわかって、ちょうど書き始めていたニュースに書いた。

思いがけず『ゆりちかへ』が発売から1年ちょっとで15刷りとなった。テレビで何度も取り上げられたせいもあるだろうが、亡き著者の思いがストレートに、販売につながったのではないだろうか。何しろ、出版を始めてからまともに広告を打ったことがない。それなのにこれだけ、マスコミが目をつけてくれた理由は、何だろうか。取材の依頼があると必ずたずねるのが「どこで、この本をお知りになったのですか」。答えは「テレビを見て」ではない。「スタッフの1人が読んでよかったって言ったので」とか、「友人から、番組でぜひこの本を紹介すべきだよ」と言われたなど。

### 出版不況といわれた2002年、50代半ばにして、無謀にも出版社を立ち上げた

若いころ、公務員生活を2年で見切りをつけて福岡へ。福岡の出版社葦書房になんとか拾ってもらったものの、2年もたたずにリストラにあった。本を作らせてもらったのはわずか3冊ほどしかない。

それから長い間、「本をつくりたい」を心の隅に封じ込めてきた。他出版社から頼まれるままにたくさんのジャンルの本を作り、それがキャリアになっ

ていった気がする。編プロ仕事を続けるうちにあっという間に13年ほどが過ぎたある日、「書店で売りたい」と思う本にであった。山本巖ブックレット全6巻。わたしは自分の詩集を自分で作った時に、出版社の名前をつけたことを思い出した。書肆侃侃房。「よしかんかんぼう」と読む。書肆は中国



100点を超えた書肆侃侃房の刊行物

語で本屋とか、出版社という意味。侃侃は侃侃諤諤から。みんなでわいわい言いながら、楽しく本づくりをしようというような意味だったが、もちろん当時は、自分が本当に出版社をやるなんて考えてもいなかったから、読めない名前なことなど、気にもかけていなかった。

フリー校正者やライターから始めて編集プロダクションの会社を立ち上げたのが20年前のこと。編プロとしての仕事には事欠かなかったのに書店や出版社に不況の波が押し寄せていたとき、無謀にも出版社を立ち上げてし

まった。

出版社としてまだ7年。完全に後発組である。高々7年だ。何十年も出版社を続けてきた人にかなはずもない。でもわたしでなければ、という何かかきとあるはずだ。続けていればいつか本づくりを続けていてよかったという本に会える。

そんなわたしの思いにぼんと背中を押してくれたのが、たまたま面識のあった地方小出版流通センター代表川上賢一さん。

「川上さん、本を作って売りたいんですけど。川上さんのところで契約するにはどうしたらいいんですか」

「契約してもいいよ。ただし、1年に3、4冊は作ってよね」

「もちろん、それぐらいは作らなければ出版社をやる意味がないでしょう」

こうして、取次という難関はとりあえずクリア。それでも出版業界の仕組みなどまるでわかっていなかった。川上さんはもう一つ、私に釘をさした。

「田島さん、出版やるのはいいけど、編集プロダクションの仕事はやめないほうがいいよ。スポンサーがいれば別だけど、そうでなければすぐに資金が底をついて、回らなくなってしまふよ」

それも納得。出版の資金は何かで稼がなくちゃ。始めてみたものの、初めは本当に売れなかった。でも、20代のころ、やっと手に入れた出版という仕事をわずか2年ほどで手放さなければならなかった悔しさをわたしは忘れてはいなかったのだ。もう一度本をつくると決めた以上、あとには引けない。そのときすでに50代半ば、本づくり

以外に何一つほしいものがない。食べていければいい。

### 今だからできるウェブとの連動、地方出版の可能性はきっとまだまだあるはず

もし20年前に出版社を始めていたら、周りにある地方の出版社と同じ道をたどったかも知れない。でも、今の時代だからこそ、全国で売れる本をと、臆面もなく言えるのだ。ウェブサイトが助けてくれるのである。いち早くブログ中心のホームページ「侃侃房譚々堂」を始めたおかげで、ここがかなり

のアクセス数を稼いでいる。『ゆりちかへ』ブレイクのきっかけになった昨年7月放送のフジテレビ「ベストハウス123」の「涙が止まらない感動の実話本ベストスリー」で1位になったとき、全国の書店から電話が入った。第一声は「なんて読むんですか」。見たことも聞いたこともない出版社だったのだ。他は小学館と幻冬舎、その上にちょこんと載った書肆侃侃房。この出版社はなんだ、と思われるのも無理はない。

最近出した本は多岐にわたる。ハワイ、モロッコ、ルーマニア、韓国の本。

珈琲関連、家、マンション。長崎やお江戸といったご当地物もある。海外物はみんな隙間の本ばかり。『ぐるぐるプサン』は発売以来好評で、今回のリニューアルは全部再取材をした。

書店でよく言われるのは「おたく、福岡なんですか。福岡の本には見えない」。よほど、福岡は田舎で泥臭いと思われているのか……。『福岡の本』は、どんな本と思っているの？ と突っ込みたくなる。そんなミスマッチをこれからも楽しみたい。

(たじま やすえ／書肆侃侃房代表)

## 新刊ダイジェスト

※価格は総額(税込)表示です。

### 『鯨取り絵物語』 ● 中園成生著



見事な捕鯨の文化誌である。日本人が捕鯨を始めたのは古く、縄文時代に遡るといふ。本書は先ず古代の初期捕鯨から近代捕鯨に至るまでの変遷について述べ、捕鯨が人類にもたらす恩恵や民俗についても触れている。多くの資料を駆使した丁寧な解説が捕鯨に対する理解を一層深めてくれる。そして本書の中心をなすものは、何とていっても『勇魚取絵詞』と『鯨魚鏡笑録』という二つの

捕鯨図とその解説である。前者は木版単色刷り、後者はカラー刷りであるが、絵図と文章が一体となって当時の捕鯨の過程がよく伝えられている。捕鯨の先進国としてその歩みを理解しておくには、またとない良い参考書である。

◆ 3150円・A5判・294頁・弦書房・福岡号  
2009/12刊・ISBN978-4-86329-010-5

### 『談 No. 83 一特集・パターナリズムと公共性』 ● たばこ総合研究センター編



パターナリズムとは主に法学の分野で緻密に論じられている概念だが、わかりやすく言えば「あなたのためだから」という理由で他人が人の行為に介入、干渉すること。こう言うとうと自由あるいは自己決定ということと対立するネガティブなイメージを喚起される。しかし、福祉の現場におけるパターナリズムを論考する樋澤吉彦氏はインタビューで、ソーシャルワークにおいては条件付き

ではあるもののパターナリズムは有効なのではないかという議論を展開する。また、北田暁大氏、大屋雄裕氏、堀内進之介氏の鼎談では、義務教育の現場等では、意思決定ができない子どもたちへのパターナルな配慮は許容せざるを得ない、とされる。

◆ 840円・B5判・102頁・アルシーヴ社・東京号  
2009/2刊・ISBN978-4-924349-17-9

### 『やまめとさくらます』 ● おくやまふみや著



ヤマメとサクラマスとは、生息する場所も姿かたちから大きさまで、全く異なっているのに深い深い不思議な関係がありました。なんと同じ仲間だったのです。きれいな川に棲むヤマメ。大きなヤマメにおいてはらわれた小さなヤマメは、海に下って行き、そこで餌を食べ、回遊して大きなサクラマスになるのです。そして、1年たったサクラマスは、産まれた川に戻ってくるのでした。た

くましく大きくなったサクラマスは、川に残ったヤマメを攻撃することもなく、一緒に子孫を残します。ヤマメとサクラマスの不思議、自然の不思議、命の不思議を描いた絵本です。やさしい色彩の絵がとてもすてきです。

◆ 1575円・A4判・31頁・ポトス出版・東京号  
2009/2刊・ISBN978-4-901979-25-2

# 売行良好書

期間：2009年2月16日～3月15日

## [出荷センター扱い] ※税込み価格

- (1) 『定本 納棺夫日記』 1575円・桂書房
- (2) 『ゆりちかへ』 1365円・書肆侃侃房
- (3) 『作っておくと、便利なおかず』 1260円・ベターホーム出版局
- (4) 『イエスの涙』 1995円・アートヴィレッジ
- (5) 『鯨取り絵物語』 3150円・弦書房
- (6) 『生きたい!!!』 1300円・リーブル出版
- (7) 『機能不全家族』 1600円・アートヴィレッジ
- (8) 『いい会社をつくりましょう。』 1260円・文屋
- (9) 『化粧品成分ガイド 第5版』 3150円・フレグランスジャーナル社
- (10) 『ぐるぐるプサン+済州島』 1365円・書肆侃侃房
- (11) 『自然農・栽培の手引き』 2100円・南方新社
- (12) 『極上の馬券術 no. 1』 880円・ノベル出版
- (13) 『神戸の市電と街並み』 1575円・トンポ出版
- (14) 『蒼き流星の軌跡』 3150円・光村印刷



## [三省堂書店神保町本店4F—センター扱い図書] ※税込み価格

- (1) 『東京かわら版 3月号』 420円・東京かわら版
- (2) 『北海道いい旅研究室 11』 690円・海豹社
- (3) 『鯨取り絵物語』 3150円・弦書房
- (4) 『狭山事件～46年目の現場と証言』 1800円・風早書林
- (5) 『信濃岩井一族』 2100円・歴研
- (6) 『ハードスタッフ 12号』 1680円・先鋭疾風社
- (7) 『定本 納棺夫日記』 1575円・桂書房
- (8) 『近江が生んだ知将 石田三成』 1260円・サンライズ出版
- (9) 『酒とつまみ 11号』 400円・酒とつまみ社
- (10) 『唐沢俊一文筆業サバイバル塾 Vol. 5』 525円・出版評論社

## [ジュンク堂書店新宿店—センター扱い図書] ※センター出荷データより/税込み価格

- (1) 『広告批評 No. 334』 630円・マドラ出版
- (2) 『K8 vol. 01』 630円・こだま屋
- (3) 『オルタ 405』 840円・アジア太平洋資料センター
- (4) 『本の手帳 第6号』 1050円・本の手帳社
- (5) 『北海道 化石としての時刻表』 1680円・亜瑠西社
- (6) 『定本 納棺夫日記』 1575円・桂書房
- (7) 『浅田家』 2730円・赤々舎
- (8) 『都築道夫 ポケミス全解説』 2835円・フリースタイル
- (9) 『愛じゃ! 人生をかけて人を愛するのじゃ!』 1365円・ホメオパシー出版
- (10) 『nobody ISSUE 29』 945円・nobody編集部

以下ホームページでも各種情報提供を行っております。ご利用ください。  
<http://www.bekkoame.ne.jp/~much/>

## トピックス — ★★★

### ▼赤々舎の快挙

先日第34回木村伊兵衛写真賞の発表があり、浅田政志さんの『浅田家』(2730円)が受賞しました。以前、381号の新刊ダイジェストでも紹介されたことのあるユニークな写真集で、ここにその時の紹介者の了承を得て再録したいと思います。

「表紙の消防士たちの写真は、どこかの消防隊員の消火活動を偶然撮影したというわけではない。これはれっきとしたある家族の記念写真なのである。写っているのは写真家の浅田政志さんとそのお兄さん、そしてご両親。彼らは消防署に頼み込んで消防車と消防服を借り、消防士になりきり、セルフタイマーを駆使して撮影したのだとか。このように浅田家の記念写真は…どれもか設定を決め、舞台俳優のように衣装を考え、ある人物になりきって撮影される。ある時は4人の窃盗団に、ある時はラーメン屋の一家に、そしてロックバンドや忍者集団に。見ているだけで笑いかみ上げてくる写真集である。」

出版社は昨年受賞作品『CANARY カナリア』(志賀理江子著・5250円)『I am』(岡田敦著・2940円)と同じ赤々舎さんです。この賞を2年続けて同じ出版社の写真集が受賞するのは初めてのことです。赤々舎さんの快挙と言ってもいいのでは。しかも、昨年と違い今年受賞作品はこの1点だけです。そして、この賞、4年連続で当センター扱いの版元さんが関わっています。なぜか当センターに縁のある賞です。

## 郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先(郵便番号、住所)、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までFAXでご連絡ください。


◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせていただきます。基本的にメール便は、一冊210円でお送り致します。(メール便の到着は、発送してから3～4日かかります。)お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合わせ下さいませ。

◎なお書籍お買上総計(税抜き価格)が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせていただきます。

★地方・小出版流通センター

FAX: 03-3235-6182

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。



# 三省堂書店

BOOKS SANSEIDO

**神保町本店 4階**  
**地方出版・小出版物フロア**

営業時間 10:00 AM～8:00 PM  
 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1  
 TEL. 03-3233-3312(代)  
 URL. <http://www.books-sanseido.co.jp>

営業の  
ごあんない

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。

